

2-1. 最近の自動二輪車事故におけるカテゴリー別（タイプ別）の特徴

背景・目的

減少を続けてきた自動二輪車の死亡事故が最近増加に転じており、この要因として大型スクーターが増加する等、二輪車のカテゴリーの変化などが考えられる。

今年度の分析では、自動二輪車の各カテゴリーの分類における事故実態の分析を行い、それぞれの事故防止施策策定のための参考資料とする。

概要

(1) 二輪車カテゴリー別分析

- ・ 死傷者は全体的に減少傾向にあるが、大型スクーターは2004年まで増加した後に横這い。
- ・ 輸入車は死傷者が二輪車全体で占める割合が10年感で殆ど不変。
- ・ 死傷、死亡事故の相手は乗用車が最多で貨物車がそれに続く。貨物車相手では高死亡率。
- ・ カテゴリーごとに事故死者の免許取得年数、二輪免許種類についての傾向が見られる。
- ・ 事故死者の飲酒運転の割合はスーパースポーツが少なく、デュアルパーパスが多い。
- ・ 危険認知速度は各カテゴリーとも死傷者は30～40km/h、死亡者は50～60km/hが最多。カテゴリーごとに高速寄り、低速寄りの傾向の差あり。

(2) 大型スクーター分析

近年事故が増加傾向にあり、保有台数当たりの事故件数が多い大型スクーターでは、

- ・ 事故死者、重傷者の年齢層別の差が他のカテゴリーと比べて少ない。
- ・ 若年層で死者数が増加してきている。
- ・ 通勤・通学時の事故死傷者が増加し続けている。
- ・ 事故例調査結果からは大型スクーター特有の事故の特徴は見られなかった